

学校 番号	62	学校名	松川高等学校
----------	----	-----	--------

平成 29 年度学校評議員活用状況報告書

第 3 回学校評議員会 【平成 30 年 2 月 22 日（木）実施】

1 実施概要（協議研究事項を含む）

1 活動報告

- ① 学校評価（生徒・保護者・職員）アンケートおよび授業最終評価（生徒）アンケート結果報告
- ② 平成 29 年度学校重点教育活動報告および学校評価・各項目評価について
- ③ 進路指導について
- ④ 生徒指導について
- ⑤ 各学年主任より
 - ・各学年生徒の現状などについて

2 質疑・意見交換

- ・ボランティア部が松川町のいろいろなイベントに参加していっしょに活動してくれ、とても遅しく感じる。福祉を考える集会でのボランティアに関わる思いの発表は素晴らしいものであった。
- ・今年で 2 年目の取り組みとなる松川町と連携した高校内企業説明会は、生徒が地元企業を知る良い機会なので、今後も引き続き継続し、地元企業への就職が増えれば良いと考えている。
- ・全ての生徒が落ち着いて授業に取り組み生活することができるよう、家庭と連携して指導してもらいたい。そして、一般社会で通用する生徒を育ててもらいたい。
- ・学びの改革に関わる中で、生徒の主体的な学びについて説明を受けたが、実際の高校の様子からは乖離しているのではないか。

2 今回の実施に当たって工夫したこと

- 1 会議資料を事前に学校評議員及び P T A 役員へ送付し、ご意見をいただく時間を十分とるように努めた。
- 2 学校評議員の方々にも「匿名性を担保した学校評価」をしていただくため、アンケート用紙を会議資料とともに事前に送付した。
- 3 P T A 新旧役員にも出席いただき、多方面からの評価や意見・要望をいただけるようにした。

3 今回話題になった事項で特徴的なものとその概要

- 1 ボランティア部や生徒会の活動で、積極的に地域の行事に参加し活躍したり、自らの意見を発表したりすることができる生徒がいる反面、授業を落ち着いて受けられない生徒もいる。全ての生徒が自己肯定感をもてるよう指導していくことが学校の課題である。
- 2 地元市町村にとって、管内就職が多いのは貴重な財産である。地域を支える人材育成のため、キャリア教育で地元企業の方の話を聞く機会を増やし、目的意識を持って学べる環境をつくってもらいたい。

4 成果と課題（学校評議員会以外の活用状況を含む）

- 1 ボランティア部の活動へは好評の言葉をいただいた。今後も活動を継続させていきたいが、来年度に向けて部員の確保が課題である。現在、2年生は男子部員しかおらず、1年生には部員がいない状態である。
- 2 学びの改革に関わり、生徒の主体的な学びについては、本格的に検討していく必要がある。
- 3 学校評議員7名中5名の出席で開催した。評議員の方々が重職にあるため他の会議と重複する点は理解できるが、より多くの方が出席できる日程設定の工夫や、評議員選出において考慮する必要がある。